



## ◇ 年頭にあたって



東白石地区町内会連合会 東白石まちづくり実践会 会長 山中 忠典

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、輝かしい新年を迎えた事と存じます。昨年は皆様のご協力を頂戴し、東白石町連も充実した一年を終える事が出来ました。感謝いたします。

昨年の9月5日には台風21号の影響で公園の木や街路樹が軒並み倒れ、9月6日には北海道胆振東部地震によって北海道全体が停電となる「ブラックアウト」という初めての経験に遭いました。まさに、「災害はいつ起こるか分からぬ」・「備えあれば憂い無し」という言葉を実感したわけです。そのような状況の中、9月29日には、約270名の地域住民が参加し、東白石地区防火・防災訓練が行われました。当日は、白石区長と白石消防署長がお忙しい中を参加してくださり、また、今回初めて地域の企業が「自主防災企業協力会」を立ち上げ、共に訓練を行いました。この場をお借りして区長、消防署長、企業の皆様に感謝申し上げます。

10月14日には、皆様の力を借りて、手作りの第3回東白石ふれあいまつりを成功させることができました。スタッフ、ステージ出演者、来場者の皆様、本当にありがとうございました。厚くお礼申し上げます。今年も昨年と同様に開催する予定でございますので、皆様のご参加をお待ちしております。

今年は、昨年の災害を教訓に、地域住民の方々が安心して生活出来るような取組みを行う中で、高齢者の見守り等にもより一層力を入れ、子供たちには「ふるさと」と思ってもらえるまちとなるよう努力してまいります。今後も皆様のご協力をお願いしますとともに、皆様のご健康、ご多幸をご祈念申し上げて結びといたします。

## ◇ 新年のご挨拶



東白石まちづくりセンター 所長 西原口 高大

新年明けましておめでとうございます。東白石地区的皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、日頃より東白石地区のまちづくりにご尽力いただいていることに深く感謝申し上げます。

私が東白石まちづくりセンターの所長に着任してから9ヶ月が経過いたしました。平成6年の採用からほとんどの期間を水道局で勤務してきた私にとって初めての区役所勤務であり、さらに、まちづくりの拠点となるまちづくりセンターの所長ということで、着任当初はとても不安を感じていました。しかし、地域の皆様に温かく迎え入れていただき、今は毎日楽しくお仕事をさせていただいております。ご協力いただいている皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。

昨年は台風や地震など多くの災害が発生した年でした。9月6日には北海道で初めて震度7を観測した北海道胆振東部地震が発生し、ここ東白石地区においても、長時間の停電や物流の停滞などにより、皆様の生活に大きな影響があったのではないかと思います。東白石まちづくりセンターでは、地震当日の15時半に電気が復旧したため、児童会館の遊戯室に携帯電話の充電コーナーを設けるなど、できる限りのことをさせていただきましたが、やはり準備不足の感は否めず、日頃より災害への備えが必要だと痛感したところです。

東白石地区では、このような災害に備えた防火・防災訓練のほか、安心・安全パトロール、ご高齢の方の見守り活動など皆様が安心して快適に暮らせるよう様々な取組みを行っております。私も微力ながら皆様の活動を支援してまいりたいと考えておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

# 平成30年度東白石地区防火・防災訓練

東白石地区町内会連合会 防火防災部長 柳本 稔榮

昨年の9月29日(土)、万生公園のグラウンドにおきまして、東白石地区防火・防災訓練を実施しました。当時は、白石消防署や白石消防団のご協力のもと、応急担架作成訓練、応急処置訓練、倒壊家屋からの生埋者救出訓練、避難行動要支援者の避難支援訓練などの他、AEDを用いた心肺蘇生訓練も行いました。今回、東白石地域の企業で組織する「自主防災企業協力会」が初めて訓練に参加し、住民と企業が一体となった訓練を行うことができました。また、福祉のまち推進センターがご招待したお一人暮らしのお年寄りの方々も多数参加され、煙道通過訓練などを実際に体験していただきました。さらに、札幌市防災協会のご協力により、防災グッズの展示も行いました。

9月6日に発生した北海道胆振東部地震を経験した後であったため、参加人数は272名と例年よりも多く、皆さん熱心に訓練に取り組んでいました。



## あけぼの町内会自主防災訓練

あけぼの町内会 会長 津元 克比古

昨年の6月17日(日)に、震度7の巨大地震が発生したことを想定して、あけぼの町内会独自の防災訓練を白石消防署の指導のもと実施しました。車椅子での参加者もあり37名が参加、ばけつリレーによる消火訓練、消火器操作訓練、三角巾の使用方法、毛布等を利用した応急担架の作成、防災機材使用訓練などを行いました。



## 第3回東白石ふれあいまつり開催

東白石地区町内会連合会 副会長 坂本 信一

昨年の10月14日(日)に第3回東白石ふれあいまつりが開催されました。スタッフやステージ出演者を含めた参加総人数は413名と多くの方々にご参加いただき、大盛況の内に終えることができました。

このおまつりは「世代間交流祭」として出発しており、今年も、子供から大人までが一緒に楽しいひとときを過ごすために盛りだくさんの催し物を行いました。

ステージでは、東白石児童会館・東白石小学校などの子供たちや各町内会の芸達者な方々がダンス、合唱、カラオケ、手品などで日頃の練習の成果を披露し、観客から盛大な拍手が贈られていました。また、体育館では、東白石児童会館の先生と子供たちや札幌国際大学の学生ボランティアの方々のご協力のもと、様々なゲームが行われ、参加した子供たちの楽しそうな歓声が響いていました。さらに、来場者には綿あめ、かき氷、ポップコーンなどがプレゼントされ、皆笑顔でスタッフから受け取っていました。

来年はさらに多くの方に来場していただき、世代間の交流をより深めたいと考えておりますので、皆様のご来場をよろしくお願ひいたします。

# 東白石地区内に「アレフ」の国内最大施設あり！

東白石地域オウム真理教(アレフ)対策住民協議会 会長 藤原 英朔

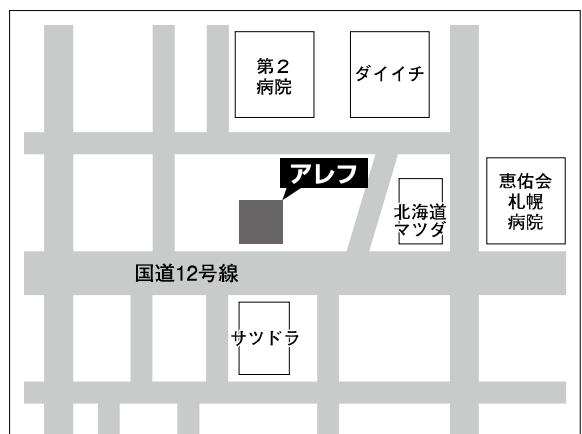
平成28年にアレフの施設が国道12号線沿いの本通13丁目北1-39に開設されて、早や2年が過ぎました(写真、位置図を参照)。この間、私達、地域住民は、アレフ対策における先進地域である東京都の足立区や世田谷区の住民協議会のご指導をいただきながら、活動方法を模索してきました。

アレフは、オウム真理教の教祖であった「麻原彰晃」(平成30年7月6日死刑執行)を教祖(神)として信じ、その思想を人々に植え付け、拡大していく組織です。だからこそ、公安調査庁がこの組織を団体規制法に基づく観察処分対象としており、私達、地域は絶対に受け入れるわけにはいきません。この思いに東白石地区町内会連合会を始めとする地区内の各種団体や個人の皆さんにご賛同いただき、昨年5月に東白石地域オウム真理教(アレフ)対策住民協議会を設立し、その活動を開始いたしました。

アレフは、親子ヨガ教室、哲学サークル、仏教研究会などを装い、オウムやアレフの名を隠して住民を施設に誘い込み、信者の増強を図っています。また、その標的となっているのは過去にオウム真理教が起こした松本サリン事件や地下鉄サリン事件について何の知識も持たない若者です。(圧倒的に女性が多い)

住民協議会の最終目的はオウム真理教(アレフ)の解散ですが、当面は、地域から施設に出入りする信者、そして信者予備軍を絶対に出さないとの決意のもと、地域の皆さんのが平穏な生活を維持できるよう、情報の交換や共有に取り組んでまいりたいと考えております。また、国(公安調査庁)、道(北海道警察)、札幌市、白石区のご指導のもと、全国の住民協議会との連携も図ってまいります。

住民協議会の住所は白石区役所内とさせていただいております。そして、活動に要する費用は皆様からの募金、協賛金で賄われております。安心安全なまち、地域を取り戻すために、是非皆様にご理解をいただき、ご支援とご協力をお願いいたします。



## 参加した子供たちの声

- ・地域の人と触れ合えてよかったです
- ・スタッフをやって楽しかった
- ・綿あめ、かき氷、ポップコーンのおかわりがほしい！



町内会訪問

## みつば自主防災会の活動

東友会 総務部長 媚山一夫

3つの町内会(東友会・長栄・本通第一:会員数810戸)は、昭和54年に札幌市とみつば会館の管理委託契約を締結し、町内の環境維持改善と安心安全を目指し「みつば会館運営委員会」を設置して、歴代の役員諸先輩が信頼関係を深めながら今日に至っております。

総会や毎月の町内会議、その他役員会など3町の利用回数は主なものに限っても年間55回程になり、7月に行われる大掃除では町内会の枠を超えて、楽しい交流の場と化します。

3町の共同事業として、例年7月には学校の夏休みにあわせた「さわやかラジオ体操」を開催しており、毎朝、子供と大人65名程が集まります。また、8月には「子供まつり」で親子が賑やかに会場を埋めていましたが、「子供まつり」は残念ながら平成28年で中止となりました。

3つの町内会では、平成16年に「みつば自主防災会」を立ち上げ、以来、東白石地区町内会連合会主催の「防火・防災訓練」に参加(昨年は36名参加)し、また、年に1度、白石消防署指導のもと、防災委員を中心に3町防火防災訓練を実施し、応急担架・応急措置・心肺蘇生・非常炊き出し等の各種訓練を行っています。

平成29年の訓練では“白石に震度5弱の地震が発生”との想定で、みつば自主防災委員が緊急集合し、集まったメンバーで本部を立ち上げ、「本部・活動班の災害時の役割」を実践的に訓練しました。同年12月には「みつば会館」が「札幌市指定避難所」に指定され、マット・寝袋が常備されました。平成30年9月6日に起きた「北海道胆振東部地震」では、札幌でこれまでに経験の無い震度6弱を観測し、白石でも震度5強を観測したにもかかわらず、避難所は鍵が掛かり無人の状態で、地域の期待に応える事が出来ず課題を残しました。自主防災会ではこの苦い経験のもとに「いかに地域の期待に応えるか」の議論を始めています。



## 第43回白石区ふるさとまつりを振り返って

東白石地区町内会連合会 副会長 多田慶一

平成最後の開催となった白石区最大のイベント第43回ふるさとまつりは、7月15日午前中の強風による中止にも関わらず2日間で29,000人の賑わいとなりました。第42回より、旧区役所駐車場から川下公園に会場を移しての開催となりましたが、今回は、会場レイアウト、交通アクセスなどが改善され、概ね成功したと感じられます。会場内もバランス良い配列でお祭りらしく、来場者の評判も上々でした。しかし、2年続けて白石音頭の披露が中止になったのはとても残念であり、次回こそは女性部の圧巻の踊りを楽しめることを期待しているところです。

東白石町連はステージ担当で、スタッフの皆さんは二日間にわたってそれぞれの業務を無事に終え、一安心しました。毎年、各町連からのボランティアの方々がスタッフを務めておりますが、暑い最中、仲間と一緒にビールも飲めず、焼きそば、おでんも口にできずに従事していただき、頭が下がる思いです。このような支えがあってこそ、長く続けられているのであり、大変誇りに感じます。これからも白石区の伝統文化として、50回、100回と続くことを願うものであります。



## 編集後記

今号は、防災関連を始め、地域の安全な暮らしに関する内容を中心にお届けいたします。また、第3回を迎えた「東白石ふれあいまつり」や、恒例となりました「町内会訪問」等、身近な話題満載でお届けいたします。

この通信を通じて、より多くの皆様に、地域に目を向け、関心を持っていただければ幸いです。